

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500155		
法人名	株式会社 まきば		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームさくらの園2号館		
所在地	宮崎県小林市細野4173番地2		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小林市の牧場の桜並木に位置し、春は桜、秋は彼岸花と自然を楽しむことができる。近隣には住宅もあり、住民の方と触れ合う事ができ、近くには、保育園、小・中学校、駐在所、郵便局、地域の消防団詰め所があり、地域交流が図れる要素が多い。併設のグループホームや小規模多機能型居宅介護事業所とは行事の催し等、交流の場を定期的に設けている。また常日頃から、行き来することで広く人とのつながりが持てる。入所者の方一人ひとりのペースに合わせて、安全で安心できる環境づくりと穏やかに過ごせる生活の支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桜並木や彼岸花で有名な小林市の名所の近くに位置し、自然豊かな環境の中にある。地域行事等へ参加したり、交流の場としてホームを提供するなどして、利用者が地域の一員として交流できるよう支援している。また、併設のグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に行事や避難訓練を開催し、協力体制の構築に取り組んでいる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を玄関・ホール内に掲げており職員が常に理念を理解することができる。また、朝の申し送りには、みんなで復唱し一日のあり方(目標)の確認を行っている。	運営法人の3事業所統一の理念を掲げ、朝礼や終礼で実践につなげることを確認するよう努めている。地域密着の意義や事業所の現状にあった理念になるようスタッフ会議で議題にして、作り変えを検討中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園からの慰問・地区の響サロンボランティアの方の行事への参加・中学校の職場体験の受入・消防団の消防訓練への参加と地域との交流を行っている。	地域で開催されるオレンジカフェや消防団の消防訓練に参加したり、地区のボランティア訪問を受け入れるなど地域交流に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の方の状況と支援内容を報告し、また、地域での認知症の方の情報をお聞きするなど情報交換を行っている。また、小学校で行われているオレンジカフェへ参加し、幅広く他の方との交流が出来るようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者や、区長・民生委員・近隣の方、ご家族の方に参加していただき、情報交換を行っている。地区の行事・市の情勢・質問事項等をお聞きしたりしている。	運営推進会議には、家族の参加もあり、意見や要望を聞く機会になっている。事業所の利用状況や活動報告を行い、サービスの向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿介護課の方には、相談や不明な点があると、電話でお聞きしたり、直接訪問して尋ねたりして連携を図っている。	入退居等の報告事項やサービスを提供するうえで分からないことや相談したいことがあるときは、担当職員に相談するなど、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	方針として、契約書にも掲げている様に身体拘束は絶対しないとなっている。身体拘束適正化委員会でも明確にし取り組んでいる。また、スタッフ研修や日頃の申し送りでも、常々身体拘束については説明を行い、実践へと取組を行っている。	身体拘束適正化委員会の内容を職員の全体会で確認し、学習する機会をつくっている。毎朝の朝礼で、抑制する言葉等を確認し、言葉使いを意識するよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、高齢者の権利擁護の方針の中で所内研修・常日頃の申し送りで説明をし意識付けの確認を行っている。言葉遣いについては、特に抑制することなく、どのように伝えたらよいのか意識するよう心がけている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を通して、虐待が決して行われる事のないようにしている。また、利用者の支援の中で、どのように対応したらよいのかわからないときは、毎日の送りや終礼等で情報を共有し対応の話し合いを行ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書で、本人・家族へ十分な説明を行い、また、不安や疑問等はお聞きし丁寧にお答えし理解していただくようにしている。また、変更についても説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状況把握と傾聴に努めている。担当者会議や家族の面会時等も、コミュニケーションを通して、希望や意見を引き出し、支援へ反映できるようにしている。	利用者や家族がいつでも意見を言いやすい雰囲気をつくっている。利用者と家族それぞれの要望を聞き、事業所内で検討の場を設け、サービスに反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議で、職員の意見や考えを伝える場を設けている。また、毎日の終礼では、勤務者全員で、その日の課題点、気づき、検討事項等を出し合い共有し改善へと向けている。	月1回のスタッフ研修や朝礼終礼で職員の意見を聞く機会を設けている。出された意見は、管理者が経営者に報告、検討し改善に役立てるよう取り組んでいる。日常業務に関係することはすぐに対応し、改善するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の状況を把握し、環境に合わせた勤務体制の配慮や、研修や資格取得のためのシフトの配慮を行っている。また、必要に応じ個別に面談をして対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所外研修の案内・定期的な所内研修の実施を行い、一人ひとりのスキルアップを図っている。また、認知症実践者研修等への参加も積極的に取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会の研修への参加や、ネットワークグループのほたるネット研修への案内をし参加の呼びかけを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族に、入所前に見学やホームでの生活に関する説明を行い、これまでの生活歴や情報を頂き、現在の困っていることやこれからどういう生活を送っていきたいか確認をし不安のないようにしている。、		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人やご家族には、入所の際の契約や重要事項の説明を行い、ホームでの過ごし方の中で、本人の気持ちのご意向をお聞きし、不安なく今後の過ごし方に活かせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画を本人とご家族に説明し、本人の要望などを傾聴し、生活の中で活かしていけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでしてこられた事、また出来る事を確認しながら、生活の中で洗濯物たたみ・お盆ふき等を一緒にやっていく関係づくりを築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでも面会できる環境であり、病院受診や外出等の協力をお願いしている。また、利用者が自宅外泊希望の時も、家族の協力で外泊ができ、家族との絆や関係の維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・寄合等の集まりの場への外出や、自宅への外泊で近所とのつながりも継続できている。、小林市の文化展見学やオレンジカフェ参加では、知り合いと会い話される場面もあり、関係性が薄れないように努めている。	家族の訪問や定期的に外泊、外出したり、年末年始を家族と過ごすなど、家族との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格や状態を把握し、自席の配慮を行っている。また、当人同士の会話や行動の中で支障が生じた場合は、職員が自然に入りわだかまりがないように声掛けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・入所先へ連絡し、状況や状態等をお聞きし状態の把握に努めている。また、ご家族からの相談があれば、応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、利用者の意向に沿えるようにしている。散歩をしたい方、外で椅子に座りゆっくりされたい方、マッサージをしたい方、家事のお手伝いをされたい方等、職員の体制で出来る限り、沿いながら対応している。	自分の思いを表現できる利用者が多く、会話の中で把握に努めている。自由時間の過ごし方は本人の希望に沿って、用具や場所を提供し見守りを行いながら、自主的に行動できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、利用者の環境や暮らし、生活歴の情報をみんなで共有するようにしている。利用者とのコミュニケーションで、新たな情報が得られることもあるので、生活の中で活かしていけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃、バイタルチェック・心身状態の観察に努めている。日々の生活では、本人の能力に応じ引き続き出来る事(洗濯たたみ・干し・お盆拭き・ごみ集め・ごみ捨て等)が継続できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を尊重した介護サービス計画書を作成している。また、現場で個々に毎月サービス支援内容による評価を行い、今後の課題点等の検討も行っている。	モニタリングによる評価や本人、家族の要望や意見を反映させて介護計画を作成している。また、話し合いの場に家族が参加し、目標期間に関係なく状況に応じて、見直し、計画作成を行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書のサービス支援項目を、日々○△×で記録し、職員で評価も行っている。日々の実践、様子を個人記録に記入している。また、朝夕の申し送りや終礼等で気づきや課題点の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前よりかかりつけ医として継続している医療機関・または協力医による往診等を利用し連携を図っている。また、必要に応じて訪問歯科の依頼も応じるようにしている。		

宮崎県小林市 グループホーム「さくらの園2号館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張美容師サービスの利用や、サロンボランティアの方の行事への参加・中学生の職場体験の受け入れ・小学校で行われるオレンジカフェへの参加をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者一人ひとりが異なり、定期受診には家族の協力をいただいて同行してもらい医療関係との連携もとっている。また、協力医の往診を希望されているご家族にも、往診時の同席の案内を行い、健康状態の把握の共有を図っている。	利用者、家族が希望するかかりつけ医で、定期受診は家族に同席の協力をもらっている。協力医による月2回の往診と、希望者には歯科受診の往診にて治療が行われている。緊急時の病院受診等家族が対応できないときは、職員が付き添い、支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での観察で、少しでも変化や気づきがあれば看護師へ報告し、状況状態によっては医療機関へ連絡し、指示をもらっている。また、職員間でも申し送り・終礼等を通して情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、医療機関との情報提供を行い、また、随時面会をして状態確認に努めている。早期退院への受け入れもやり取りの中で連携を図っている。退院後も、生活支援や健康管理が適切に行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化・終末期の方針の説明を行い、同意書を頂いている。状況や状態に合わせて、随時ご家族との話し合いの場を設け、方向性の協議をしていくように努めている。	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に説明し同意を得るようにしている。重度化した場合、状態に応じ、本人や家族と話し合いを行い、医療機関との連携を図り、安心してサービスが受けられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡体制・緊急時対応マニュアルを作成し、職員へ周知を行っている。指示や研修を行い看護師を中心に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時連絡体制・緊急時対応マニュアルを作成し、職員へ周知を行っている。また、年2回の消防訓練には近隣の方・地元の消防団の参加も頂いている。自動緊急装置には、近隣の方、職員・運営推進委員の方を登録してありすぐ駆けつける体制も整えている。	隣接する2施設と合同で年2回夜間を想定した訓練を含めた消防訓練を行っている。地元の消防団、地域住民の参加もあり、施設の状況をや緊急時の避難経路を確認するなど、協力体制の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を重視、また、プライドを損なわないように言葉遣いや声掛けに充分気を付ける事や、排泄支援や入浴時も尊重し支援するように心がけている。	一人ひとりの誇りを持った言動を尊重し、恥ずかしい思いをさせないように、入浴や排泄時の対応等を工夫し、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、コミュニケーションを通して、本人の意思や希望の確認をし、寄り添う言葉かけや見守りの支援を行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個別のペースで生活できるように支援するようにしている。お部屋で一人で過ごしたい方・ホールでみんなの中で過ごしたい方とその時の希望によって過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室へ行かれる方・家族と一緒に買い物に行かれる方・着たい服を選べたりされている。入浴時の着替えの準備等も自分でされる方もいらっしゃるので、継続してお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きなものをお聞きし、厨房へ要請したり、食事時間が楽しく会話できるように配慮している。食事前・後の台ふきや、お盆拭き等と一緒にするなど出来る事の継続に努めている。	季節のものや施設内の菜園で採れた野菜を使い、食事前に献立の紹介をし、食事が楽しみになるよう工夫している。台拭きや下膳の手伝い等を行うなど、できることが続けられる支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は、利用者に合わせた形態(刻み・ミキサー食・トロミ使用等)で提供している。水分もいろんな味で楽しめるように工夫している。食事・水分量も毎回記録し把握するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は見守りをし、必要な方は介助で行っている。 また、必要な時は協力歯科の訪問歯科医院も希望に応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄シートに記録し、パターンや排泄回数の把握に努めている。また、尿意便意の訴えは優先し、誘導することでトイレでの自然排泄を支援している。	誘導や二人介助等で、日中は全員がトイレでの排せつができるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便回数や量・形態のチェックを行い、記録に残し把握するようにしている。食事の工夫や水分の量の把握・散歩等の運動などを行いながら自然排便ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況や状態に合わせて入浴の対応をしている。無理強いくことなく、拒否があるときは声掛けや対応に工夫している。また、気の合う人、合わない人のつながりがあったりするので順番や配慮を行っている。	入浴を拒む場合は、体調や気分に合わせて、タイミングを見て入浴の促しを行ったり、声掛けに工夫をして入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や習慣を把握し、いつでも休息出来るようにしている。夜も、すぐ休まれる方、ゆっくりテレビ鑑賞をされる方と希望に応じている。また、寝具等も常に清潔に保ち、室温にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師によって内服薬の管理を行っている。利用者それぞれの内服薬の種類や効用、量などの確認がいつでもできるように、個人記録つづりに保管されている。服薬時には、名前、日付・飲み込みまでの確認を行い誤薬がないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	状態に合わせて、体操・歌・脳トレ・散歩等をしたり気分転換の支援を行っている。また、お盆拭き・洗濯たたみ・台ふき・ゴミ集め等の役割をもって、お願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日頃より、家族の協力で、自宅への外泊・外出・病院受診等一緒に過ごされる事がある。また、近隣で行われるオレンジカフェへ参加したり、花見ヘドライブしたりと支援を行っている。	隣接の小規模多機能型居宅介護事業所に行ったり、園庭を散歩するなど、日常的に戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者の方は、お金の管理をされていない。お一人少額持参されており、ご自分の好きな黒飴の購入を依頼され、買ってくるとすぐ支払いをご自分でされる。(以前は一緒に買い物に行っていたが、現在は体調悪化で頼まれます)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡されたい方は、いつでもやり取りができるように支援している。ご自分でダイヤル押される方・頼まれる方いらっしゃる、家族とやり取りされます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は、広く見渡すことが出き、高い天井からの光が入り明るいスペースになっている。トイレや浴室はわかりやすいように表示し、廊下等は広く手すりが両方に設置され、歩きやすくなっている。温度調整もシーリングファン等を利用しながら行っている。	食堂や居間は明るく、十分な広さがあり、移動や体操等の活動が安全に行われるようになっている。居間にはソファが置かれ、自由にテレビを見たりして過ごせるよう工夫しているが、掲示物などがなく、家庭的な雰囲気が感じられるとは言えない。	共有空間に掲示物等がなく、家庭的な雰囲気を感じるものが少ないように感じる。利用者が懐かしさを感じるような装飾品等を工夫し、家庭的で居心地のいい空間をつくることに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は日々自由に過ごされている。ソファに座りテレビ鑑賞されたり、気の合う方と隣同士で話されたり、時には居室でお昼寝されたり、整理整頓されたりしている。席の配慮や口論があると職員が入り、穏やかに過ごされるよう声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、収納も充実しゆっくり過ごせるスペースになっている。夜間時の、トイレへの動線への配慮を行ったり、テレビ鑑賞が好きな方は持ち込まれ、好きなものを飾られたりされている。	写真や愛用の品物、テレビ等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・廊下・トイレ等には手すりが設置しており、表示もあり安全に過ごされるようにしている。車いす・歩行器等の使用の方も、広いスペースで移動できるように配慮されている。		